教育者の素質と適性

床　次　正　安（鉱物学教室）

徳島大学教育学部の集中講義には驚きました。冬休みの始まる12月23日から御用納めの日まで1週間とのことです。最上級生の単位ですが，下級生も出席させるとの話です。成績に無関係な3年はもちろん，4年生もその時期には就職も決まっているはずで，講義など身を入れるはずがありません。

回折結晶学，ことに，X線回折による原子的構造の決定法は，地学ばかりか物性物理学や化学の最も基礎になる分野ですが，学部の講義でとりあげられることはめつたに有りません。機会さえ与えられれば尻尾を振って宣伝に行く気で居りましたから，聞き手が一人でも居てくれれば結構というつもりで，X線回折カメラなどを車に積込んででかけました。ところが，単位を取得するとかしないとかに無関係に，3，4年生が全員出席して，朝から晩まで，真面目に聞いてくれるのです。

その年度の人にかぎりません。翌々年度には，最上級生の卒業の可否を決める会議も終って，卒業式だけを残している時期に，同じく一週間の集中講義を行ないました。最終学校終了から就職までの期間は，人生最後の休みではないにしても，

各人の前半生では最も大切な休暇のはずです。集中講義の単位も先付けで優が記されており，判定会議後に取消される心配もないわけですが，全員郷里にも帰らず，旅行もせず，小生の講義をきゝました。例により，単位を貰わない２，３年生も同様でした。この年は私にとっては二度目の経験で覚悟ができていたので驚きはしませんでしたが，それでも呆れました。

近年の学生気質を理解している訳ではありませんが，理学部だったらどこの大学にせよそれほど無茶苦茶な真面目人間ばかりではないと思います。冬休み中や春休み中の講義に全員出席などということは，教育学部でなければ有り得ないことでしょう。どうも教職に就こうと志ざすほどの人間は，生まれながらに生真面目な人種に属するらしいと考えざるを得ません。でもしか教師などという悪口は，実情を知らない人の言種に違いありません。

そこで考えたのですが，学校教育に於て，先生という先生が皆，教師を天職としているという状態が望ましいかということです。怠惰な生徒や，非行に走る心理は，ある程度，そういった性癖のある教師でなければ理解できないのではないでしょうか。全員が怠け者である必要はありませんが，何人かに一人は教師に適わしくない様な人柄の先生が居た方が，学校全体をうまく運営できるのではないでしょうか。

徳育に限らず知育についても同様なことは考えられないでしょうか。小学校は，全教科を一人の先生が教えるから，割合に良いのですが，中学以上になると，特定の学科が得意であった人がその学科を教えるようになります。その結果として劣等感を持っている生徒が落ちこぼれて行くのではないでしょうか。先生ができなければ生徒達も，あの程度まではできるという安心感を持てるのではないかと思います。その場合，出来の良い若干の生徒の反応はわかりませんが，たいして弊害は生じないでしょう。教師のうちの多数は今まで通りその学科の人を残して，水準の下落は防ぐことにして，一部分はその学科が不得手な人に分担させることはできないでしょうか。小生自身は，第二外国語を教えたくてたまりません。教養課程で習っただけでなく二年間もその言葉の中で暮したのに少しもできないのです。それでも私が教えれば生徒の中からは一人も脱落者を出さない自信があるのです。如何なものでしょう。